

**団体名：やのくち正吉苑（稲城市）**

**活動内容：介護などの相談ができる「ふらっとCafeやのくち」の運営**



**設立：2015年**

**施設長：日野 祐子さん**

**来店者数：200～300名／月**

母体の社会福祉法人は、特養老人ホーム等を都内で8ヶ所運営。「やのくち正吉苑」では、グループホーム・看護小規模多機能・定期巡回随時対応訪問介護看護・包括支援センターなど地域に密着した施設を目指し、地域の空き店舗を借り、「たまり場」としてカフェを開店。ボランティアの方を募集し、施設の職員を担当にして、コーヒーやクッキーを販売したり、包括の相談窓口を置きながら、地域づくりを目指しています。

# 背景

## 地域の方が集まる場所「押立の家」



# ふらっとcaféやのくち オープン



# オープンして感じた課題



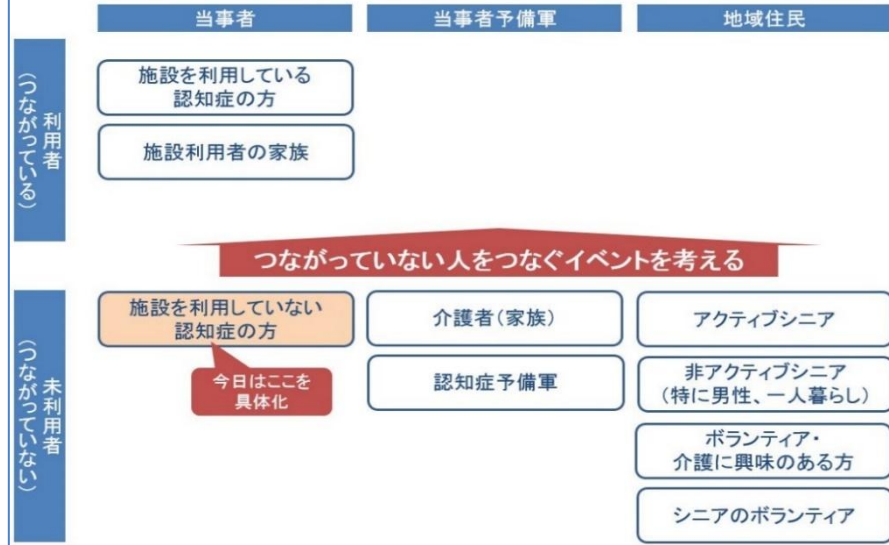
# プロボノに期待すること

- 一歩離れたところで、課題整理をしてほしい
- 課題整理の方法をみたい

# 東京ホームタウンプロジェクトの支援内容(2016年度): スペース活用ワークショップ

## ①ターゲットの明確化

- ・ Caféを利用して働きたいターゲットを整理する



## ②目指す姿と実現のための施策検討

- ・ ターゲットに、Caféを利用してどうなしてほしいか(目指す姿)を描く
- ・ 目指す姿を実現するために何をすべきか(施策)を検討する

ターゲット	どうなしてほしいか(目指す姿)	実現のための施策
施設を利用していない認知症の方	よりよい、楽しい生活を送れるように	今日はここを具体化
介護者(家族)	息抜きができる	
認知症予備軍	認知症についての情報を収集して認知症を予防する	
アクティブシニア	地域活性の担い手になってほしい	
非アクティブシニア(特に男性、一人暮らし)	横のつながりをもてる	
ボランティア(若い人)介護に興味のある方	介護や認知症を知ってほしい(今後スタッフになってほしい)	
シニアのボランティア	介護予防につなげる	

(実際の成果物)

**目的:** 誰でも気軽に立ち寄れるカフェにするためのスペース活用

**支援内容:**

職員一人ひとりイメージが異なっていた「カフェのあり方」をまずは整理しました。そこから、ターゲットを整理し、カフェをどのように活用するかをディスカッション。一番来てほしい利用者層に的を絞った活用法を検討し、具体的なアクションプランまで立案しました。

# 今後の活用 半年経過して

- 地域貢献事業としてのカフェの役割を明確化
- 事業毎にターゲットや目的を明確化



ありがとうございました。

